

スペインの 偉大なる「魂」 と出会う



韃手南中学校
赤坂雅裕

スペインの偉大なる「魂」と出会う

ー ザビエル・ゴヤ・ガウディ・ピカソ・カザルスなどー

元バルセロナ日本人学校 教諭
福岡県鞍手町立鞍手南中学校 教諭 赤坂 雅裕

1. はじめに

治安の悪い海外では、日本国内のように、頻繁に校外での調査活動を行うことはできない。

しかし、そのような制約のもとでも、価値ある総合的な学習を実践したい。

（日本国内に劣らない実践を行い、海外に住む日本の子たちを、「世界に羽ばたく、心豊かなたくましい日本人」に育てていきたい。

海外にあるという特殊事情のもとでも、「子どもたち自らが学び、考え、課題解決する能力を身に付け、生きる力を育んでいく」「現地理解を図るとともに、自己の生き方を考えることができるようする」というねらいを達成できる総合的な学習ができるのではないかと考え、挑戦したものが、以下に示す報告である。

2. 授業の実際

（1）年間計画のはじめに

人は、「ほんもの」と出会い、感動し、「ああ、私もこの人によくなりたい！」と心からのあこがれを持つことができると、自ら努力を始める。自分で自分を前進させようとする。

（総合的な学習を始めるにあたって、まずは、私自身が心を振るわされた〈スペインの偉人〉を、子どもたちに率直に語りかけた。

ザビエル、ゴヤ、ガウディ、ピカソ、ミロ、カザルスなどである。

これらの偉人との出会いの中で、子どもたちが、「ふーん、そんな人が、このスペインにいたのか。ちょっと興味がわいてきたな。もう少し、調べてみたいな」と思ってくれることを期待したのである。

全てを報告することはできない。2回に渡って行ったピカソの授業を報告する。

（2） 【 ピカソⅠ ー眼光鋭きカメレオンー 】

〈本時の目標〉

ピカソの偉大さを理解し、ピカソの 「生涯」と「作品」に興味を持ち始める。

〈展開〉

		学習のねらいと活動	教師の支援
--	--	-----------	-------

導 入	5分	1 この少年、だれでしょう？（絵1） 2 それでは、この青年はだれでしょう？（絵2） 3 それでは、この人は？（絵3） ・・・ はい、今日はピカソについて学びましょう。	・「バルセロナの美術館にあるよ」とヒントを出す。
	15分	4 ピカソは何歳まで生きたと思う？ ・・・ 91歳まで生きたんですが、死ぬ直前にも自画像を描いているんです。 どんな自画像を描いたと思う？ 予想して、描いてみましょう。	・91歳の自画像を描くヒントとして、①絵1～3を描いた年を教える②70歳の頃のピカソの写真を一人一人に渡す、を行う。
	5分	5 （お互いの絵を見あった後）実は、これなんです。	・見た瞬間の生徒のつぶやきを取り上げて、次の活動につなげる。
展 開	15分	6 ピカソの91歳の時の自画像と絵1～3を見て、ピカソはどんな画家だったと思う？ 「91歳、死の直前まで・・・は変わっていった。変わらなかったのは、・・・」という発表をしてください。	・「形」と「色」に着目して予想するように助言する。
	5分		・一人一人の予想を聴き、うなずく。
ま と め	5分	7 これらの絵を見てください。 （科学と慈愛、人生、アヴィニョンの娘たち、ゲルニカ） 皆さんが予想した通り、ピカソは、創造と破壊・・・。 変わらなかったのは、①絵画への情熱②人を描き続けたこと。 （“眼光鋭きカメレオン”と板書する） この2点が、ピカソの特徴であり、偉大さであると思います。 この次は、ピカソのある作品についてくわしく勉強しますね。お楽しみに。	・それぞれの絵の説明を、簡単に行う。

(3) 【ピカソII 一命をかけた叫び“ゲルニカ”ー】

〈本時の目標〉

[ゲルニカ] について学ぶ中で、ピカソの「生涯」と「作品」に興味を持つ。

〈展開〉

	発 問 ・ 指 示	教師の支援
--	-----------	-------

導 入	5分	1 詩を読みます。何に関する詩でしょうか？ 2 ヒント、ここに關係します。 3 ヒント2，先生が、これを買ったところで、前回勉強したピカソの作品のどれかと關係があるのです。 ・・・ はい、そうです。[ゲルニカ]を見て作られた詩でした。	・スペインの地図を描きながら、質問し、位置を確認する。
	5分	4 さて、詩には、「色が消えた、音が消えた、誰も消えた」等と書かれていましたが、いったいゲルニカという街で何が起こったのでしょうか？ ・・・ ビデオで見てください。 5 絵を見ながら、質問に答えてください。	・ナチスのコンドル軍団が都市を破壊する空爆の実験としてゲルニカを爆撃。ニュースを知ったピカソが、その怒りから描きあげた作品が[ゲルニカ]であることを説明する。
展 開	5分	①6人の人が描かれていますが、男何人、女何人？ どうして女性の方が多く描かれているのでしょうか？	・6人の状態〈切り裂かれた兵士など〉を説明する。
	15分	②この6人の人たちが、何か言うとしたら、何を言うのでしょうか？ ③馬と牛は、攻撃されているスペイン側を表しているのでしょうか？ ナチスやフランコを表しているのでしょうか？	・質問②は、吹き出しに予想される言葉を書き込ませることによって答えさせる。死んでいると思われる人の分も考えさせる。
終 末	10分		・全てを解釈することは難しいが、全体的には、非戦闘員をも標的とする無差別爆撃への怒りと悲慘さが表現されていることを押さえる。
	3分	6 ナチス占領下、ピカソのアトリエを検閲に訪れたドイツ軍の将校が、ゲルニカを見て、嫌悪の表情で「これを描いたのはあなたか？」と質問してきました。場合によっては殺される危険もあります。ピカソは、なんと答えたと思いますか？	・ナチスにとって、[ゲルニカ]は、とても都合の悪いものであったことを説明する。 ・教師がピカソになりきり、「描いたのは私だ。描かせたのは、あなた方だ」と、低く強い声で言う。
終 末	2分	7 この後、ピカソは殺されたのでしょうか？ ・・・生きていたとしたら、この後、どんな作品を残したのでしょうか？	・結論は出さず、オープンエンドで終わる。

3. おわりに

授業後、次のような感想が寄せられた。

『 眼光鋭きカメレオン・・・ピカソのすごさ4つ 』

- 1 小さいころから、とても絵がうまくて、子どもらしい絵が一枚もない。このころは、目に見える人間の姿ばかり描いていた。【絵の才能】
- 2 ところが、ところが。ここでピカソの人生が狂い出す。
親友の死や、親友の彼女との間に起こったことへの罪悪感等がピカソをキュビズムへと目を向けさせる。このころは、目に見える人間の姿ではなく、人間らしさである「複雑さ」を絵に表した。
【人間らしさを絵に表すすごさ】
- 3 ゲルニカの大空襲。命をかけて描いた絵。ピカソの感性のすべてをぶち込んだ絵。
【すべての人を感動させるうえ、歴史事実を生々しく表すすごさ】
- 4 自分の死を目前にしたピカソ。最後の自画像。
燃えるような髪（絵を描く情熱）。見る者を圧倒させる目（いろんなものを見てきた目）。青白い顔（もう若くない）。
【最後の最後まで絵を描くことの情熱が消えなかった天才画家ピカソ】
ピカソはすごすぎる。（T子）

この生徒は、2学期終業式の生徒代表の挨拶（2学期を振り返って）で、

今学期の1番の思い出は、授業でピカソやカザルスなどを学んだことです。
彼らは、芸術で世界を動かしました。
私も、私の得意なことで、彼らのように世界を動かす人間になりたい。
何か世界のために良いことができる人間になりたいと思います。

と述べた。

この3年間、生徒の口から出てくる「良かったこと」や「思い出」は、文化祭や体育会などの学校行事に関するものばかりであった。教科や総合的な学習の〈授業〉に関する発表は初めてであったので、教職員の中から驚きの歓声が起こった。

その後、コンピュータによる調査を中心に、彼女は、ピカソをはじめ、ゴヤなど、スペインの偉人を自ら深く追求した。

3月17日、私の帰国の日、彼女がプレゼントをくれた。

スペイン語で書かれた、ゴヤの画集である。

添え書きに「先生、これを使って、日本でもぜひゴヤやピカソの授業を行ってください」と書いてある。

今、私の宝となっている。

この画集をみるたびに、今度は、この日本で、〈授業〉を通して、「世界に羽ばたく日本人の育成」に貢献したいという決意を新たにしている。

去りてなお 蒼く輝く パルセロナ

○ 「世界と遊んできんしゃい」

入退院を繰り返していた母が、病室から私に送った最後の言葉。

母は、私がスペインに発って、わずか3ヶ月後に亡くなってしまった。

死に目にも会えていない。これ以上ない最大の親不幸。

病気の母を残し、自分の夢を追って旅立ったバカタレ息子。

自分のことより最後まで息子を優先させた心優しく強い母。

○ 「日本人学校。なんじゃ、そりゃ？」

「敵前逃亡じゃないか」

「いじめ・校内暴力・不登校」国内にこんなに問題があるのに。

理解してくださる方ばかりじゃなかった。味方ばかりじゃなかった。

それでも、「社会科教師として、自分の目で世界を見、歩きたい。ほんものの教師になりたい。世界に羽ばたく日本人の育成に貢献したい」と我を通したわがまま教師。

○ 「お父さん、世界へ」

成田空港発パリ行き。出発寸前、小学5年の息子が言う。

「サタンがサタンが、槍を投げてきようやん！」

バルセロナに着き、1週間後、高熱を出して、夜中突然叫びだした、中学2年の娘。

病院は？電話の使い方は？スペイン語は？戸惑うばかり。

・・・この3年間、10年分、いや20年分の喜びと苦しみと悲しみを味わった。

私だけでなく、妻も娘も息子も。

そして、鍛えられた。試練に。困難に。

今振り返り、家族全員で、力を会わせて乗り越えることができた幸せ。幸せ。

○ さて、3年間のバルセロナ。私に何ができたのか？

教師として、確かに、新たな〈自分〉を創造することができた。

そして、「日本人を学ぶシリーズ」「スペイン人に学ぶシリーズ」「ヨーロッパ人に学ぶシリーズ」の〈授業〉実践を行った。

これらの〈授業〉を通して、「世界に羽ばたく日本人の育成」に貢献できていることを切に願う。